

平成31年度施政方針

はじめに

平成31年度予算関係議案の審議に先立ち、私の市政運営の基本姿勢について申し上げます。

皆様方の温かいご支援とご理解を賜りスタートいたしました、私の第2ステージも折り返し点を過ぎ、3回目の年度を迎えることになりました。

振り返りますと、昨年是一年の世相を表す漢字に「災」が選ばれるなど日本中が災害に見舞われた一年でありました。6月に発生した大阪北部地震に続き、7月には愛媛県にも甚大な被害をもたらした西日本豪雨災害など、改めて自然災害の脅威を痛感するとともに、防災対策の重要性を再認識した次第でございます。

また、昨年は「Hello! NEW」プロジェクトを本格始動した年でもありました。別子銅山の開坑以来、新しい仕事生まれ、そこで働く新しい人々を迎え入れ、新しい技術や新しい産業が生まれ、発展してきたまち、それが新居浜市であります。「新しいをチカラにするまち」「Hello! NEW 新居浜」をスローガンに掲げ、「再発見」と「創造」、この二つの新しいをチカラに、みんなが誇れる、そしてみんなに愛される、新しい新居浜をつくるための活動を進めております。平成30年度は、市内向けには、「市民とともに動く、動かす」を、市外向けには、「新居浜市のファンづくり」をシティブランド戦略の柱として、様々な施策を実施してまいりました、

まず、市制施行80周年を記念して製作したふるさと映画「ふたつの昨日と僕の未来」が新居浜市での先行公開後、東京を皮切りに全国で順次公開されました。映画では、市民の皆さんもたくさん出演され、東平や端出場、煙突山などの産業遺産をはじめとして、あかがねミュージアムや市内の見慣れた風景が次から次へと繰り出され、クライマックスでは山根グランドでの太鼓台の担き比べが映し出されました。さらに、エンディングではふるさと観光大使である水樹奈々さんが故郷を想い、自ら作詞した曲が流れ、まさに「オール新居浜」として、本市の魅力为全国に情報発信できたものと考えております。

次に、1月11日から20日までの間、東京ドームで開催された「ふるさと祭り東京2019」に庄内と金栄の2台の太鼓台を派遣し、19日と20日の

二日間、首都圏の皆様に豪華絢爛、勇壮華麗な新居浜太鼓台の競演を披露いたしました。当日は、各自治会からの参加者に加えて、首都圏近郊に住む本市出身者やゆかりのある方々にもかき夫として参加していただきました。たくさんのお客や参加された皆さんから、「是非本番の祭りに行ってみたい」、「久しぶりに新居浜に帰ってみたい」などの声をいただき、ふるさとへの愛着や誇り、新居浜の魅力を感じていただけたものと思っております。今後、来年の東京オリンピックの開会式への太鼓台出場を目指し、関係機関に働きかけてまいります。

また、第二回「あかがねマラソン」は、ハーフマラソンとして、山根公園からマイントピア別子、鹿森ダムに至る高低差約300メートルのタフなコースに変更して実施したところ、市内外から多くの選手の皆様に参加していただき、緑に囲まれた自然の中で、産業遺産の息吹を感じながら、選手の皆さんは懸命に走られ、感動の大会となりました。

さらに、本市の基幹産業である「ものづくり産業」においては、新居浜機械産業協同組合が30周年記念事業として、組合員38社が共同受注し、マイントピア別子の観光鉱山列車「別子1号」をリニューアルし、3月の運行開始に向けて準備を進められています。市内のものづくり企業が、様々な苦難を乗り越え、技を結集した初めての協業プロジェクトであり、これを機に、「ものづくりのまち新居浜」を全国に向けて情報発信してまいりたいと考えております。

さて、今年は歴史的な皇位継承の年であります。私たちが歩んできた平成という年を振り返りますと、好景気に沸いた、いわゆる「バブル景気」とその崩壊、東日本大震災をはじめとした大規模な自然災害の発生、人口減少・高齢化社会への突入、インターネットやスマートフォン、AI等の新技術の急速な普及など、人々の営みや価値観が大きく変化した、激動の30年でありました。今年5月の改元を機に、時代は大きな区切りを迎え、私たちは新たな時代への第一歩を踏み出すこととなります。

このような中、国におきましては、全ての世代が安心できる「全世代型社会保障への転換」、女性や障がい者、高齢者など誰もがその能力を発揮できる「一億総活躍の実現」、未来の可能性に満ち溢れた「地方創生」、防災・減災対策による「国土強靱化」など、さまざまな取組により、急速に進む少子高齢化、激動する国際情勢に立ち向かうとされております。

本市におきましては、平成23年に市民の皆様の英知と総意を結集して策定いたしました「第五次新居浜市長期総合計画」も残すところあと2年、「住みたい住み続けたいあかがねのまち」を目指して、平成27年に策定いたしました「新居浜市総合戦略」は、最終年度となり、まさに総仕上げの時期を迎えております。

こうしたことから、平成31年度は、地方創生を成し遂げるための「新居浜市総合戦略」の完遂、近い将来発生が懸念される南海トラフ巨大地震に備えた防災・減災対策の強化・充実、そして東予東部圏域で初めて実施される振興イベント「えひめさんさん物語」の円滑な実施に重点的に取り組んでまいりたいと考えております。

「新居浜市総合戦略」の完遂

まず、「新居浜市総合戦略」についてでございます。

人口減少に立ち向かい、地方創生を成し遂げるため、「雇用の創出と地元産業の振興」、「定住人口・交流人口の拡大」、「子育て支援と健康長寿社会の実現」、「広域連携と時代に合ったまちづくりの推進」の4つの柱を基本に、総合戦略を推進しているところでございます。

具体的な取組といたしましては、昨年から市民の皆様が本市への愛着と誇りを高め、シビックプライドの醸成を図るため、「都市基盤」、「産業」、「福祉」など8分野35事業の「Hello!NEW」プロジェクトに取り組んでおり、「子育て世代包括支援センター」の開設や母子健康手帳のICT化、小中学校の空調設備の整備着手、市史編さん事業の開始など、全てのプロジェクトにおいて、ほぼ予定どおり進捗しております。

特に移住・定住の促進を図るための事業では、移住・定住に特化した専用ポータルサイト「新居浜ライフ」を開設したほか、若い世代をターゲットとしたフリーペーパー「#（ハッシュタグ）ニイハマ」を作成し、首都圏を中心に配布いたしました。

これらの取組により、昨年発表されました人口推計では人口減少が想定より緩やかとなり、また本市の有効求人倍率が県内で唯一2倍を超えるなど、着実にその成果が表れてきているものと思っております。また、住友化学株式会社のメチオニン増設や新居浜LNG株式会社によるLNG基地建設など、住友各

社が大型設備投資を実施していただいていることを大変心強く思っております。

一方で、市内の多くの企業で人材不足が深刻化しており、人材確保が喫緊の課題であると認識しており、行政といたしましても企業、関係団体等と連携を図り、人材確保に積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

また、「第五次新居浜市長期総合計画」につきましても、完遂に向けて全力で取り組むとともに、併せて10年間の検証を行い、2021年度から始まる「第六次新居浜市長期総合計画」の策定に向けて審議会を立ち上げるなど、具体的な準備を進めてまいります。

防災・減災対策の強化・充実

次に、防災・減災対策の強化・充実についてでございます。

昨年の西日本豪雨災害に見られるように、近年頻発する台風や豪雨、さらには近い将来の発生が懸念される南海トラフ巨大地震等に対応するため、防災・減災対策の強化・充実が喫緊の課題であると考えております。

今後、全戸に配布予定の各種防災情報を一元化したマルチハザードマップやコミュニティFMと連動した防災ラジオなどを活用し、市民の皆様には災害に備えるという意識を常に持っていただきたいと思っております。防災における基本方針として、できるだけ被害を最小化し、被害の迅速な回復を図る「減災」の考えを周知し、たとえ被災いたしましても、人命が失われないことを最重視し、さまざまな対策を組み合わせ、災害時の社会経済への影響を最小限にとどめるよう取り組む必要がございます。

来年度末の完成を目指し、現在、体験型防災センター機能を備えた総合防災拠点施設を建設しておりますが、今後におきましては、この施設を市民の命を守る防災のランドマークとして、危機管理体制の見直しも含め、ハード・ソフトを組み合わせ、一体的に防災・減災対策の強化・充実を図ってまいります。

東予東部圏域振興イベント「えひめさんさん物語」

次に、東予東部圏域振興イベント「えひめさんさん物語」についてでございます。

平成31年度最大の事業といたしまして、愛媛県と新居浜市、西条市、四国中央市の東予3市が連携した初めての圏域振興イベント「えひめさんさん物語」を

開催いたします。「さんさん」とは、東予地域で脈々と受け継がれている、歴史、文化を背景としたものづくり「産業」と石鎚山や赤石山系、法皇山脈の「山」、そして海や街に降り注ぐ「太陽」これらの3つの「さん」、さらには東予3市の「さん」を表しております。5月の第一話「ものづくり物語」から始まり、11月までの間、月ごとにイベントを彩る6つの物語の「コアプログラム」と地域の人々が作る新しい物語である「チャレンジプログラム」、さらには地域のイベントや祭りとも連携する「連携プログラム」及び「セレモニー」の4つのカテゴリで展開されます。

特に、10月の第5話「あかがね物語」は、東洋のマチュピチュと言われるマイントピア別子東平の絶景を背景に行う初の野外コンサートであり、新居浜市エリアテーマイベントとなっております。本市出身の石丸幹二さんを招き、標高750メートルで奏でる「天空の音楽祭」は、東平の新たな魅力を再発見できるのではないかと、非常に楽しみにしております。また、キャッチコピーである「三都を巡る、きらめく、モノ・コトさがし」を多くの皆さんに体験していただき、東予地域の魅力を全国に発信してまいりたいと考えております。

昨年来、藤井聡太七段の活躍により、空前の将棋ブームが到来してきております。かつて戦後の昭和の時代にも同じような将棋ブームがあり、当時、振り飛車、居飛車など数々の新手を開発し、ブームの中心にいた舛田幸三名人が、色紙にいつも書いておりましたのが「着眼大局着手小局」という言葉でございます。

元々は、中国の戦国時代末の儒学者「荀子」（じゅんし）の言葉ですが、物事を長く広い見地から見ながら、目の前の小さなことから実践するという意味でございます。

常に、長期的、かつ大きな視点に立ちながら、具体的な事柄を着実に実施していくということは、市政運営にもそのまま当てはまることであります。

市が策定する最上位計画である長期総合計画が大局とすれば、計画を具現化するための諸施策は小局であり、これを着実に実施することが、市が目指すまちづくりの実現につながることとなります。「着眼大局着手小局」の見地から、「第五次新居浜市長期総合計画」の完遂に向けて取り組んでまいります。

また、今年の干支は「猪」でございます。

「猪見て矢を引く」という言葉がございますが、事が起こってから慌てて対策を講ずるという意味であります。何事も事が起こってから対策を講じていたのでは、全てが後手に回ります。猪を見て矢を引くのではなく、先手先手で事を行っていくということがございます。

このことは、行政においては常に心掛けておく必要があります。将来を見据えた施策、特に防災対策については、事が起こる前に将来を見据えて、先手先手の対応をしていく必要があると考えております。

平成31年度は、「着眼大局着手小局」、「先手必勝」を念頭に、スピード感を持って、各種施策に取り組んでまいりたいと考えております。

以上、新年度における市政運営の基本姿勢について申し上げます。

引き続き、主要施策の概要につきまして、第五次新居浜市長期総合計画に掲げる6つのフィールドごとに、順次ご説明申し上げます。